

スポーツ健康福祉学科結果

「プロフィール」設問 1～10

スポーツ健康福祉学科のアンケート回収率が 1 割程度と非常に低い結果でした。回答者の男女比は 7.5 : 2.5 と男子学生が多いのが特徴的でした。出身県では、宮崎県内が 4 割、大分県が 2 割程度でその他が福岡県、熊本県出身者でした。入試区分では、指定校入試が 6 割を占めていました。本学以外の受験をしていない学生が 8 割を超えていました。通学手段では、バイクあるいは自動車での通学がそれぞれ 3 割で、ついで自転車の学生が多く、バス及び電車とバス両方使用している学生も若干名いました。通学時間は 30 分以内の学生が 8 割以上でした。学友会委員であることを知っていることの有無は、両方 5 割でした。

「大学入学以前について」設問 11～17

本学の情報収集先としては、オープンキャンパスと答えた学生が 5 割で、大学案内が 3 割、親、知人、高校教員、先輩が 3 割でした。本学学部・学科選択に大きく関与したのは親が 4 割、次いで高校の先生と自分の意志がそれぞれ 3 割を超えていました。選んだ理由としては 8 割以上が資格取得を理由に挙げていました。国家試験合格率が高いや就職率が高い、自宅通学ができる一人暮らしができるを選んだ学生もいました。高校までの不登校経験は、ありが 2.5 割、なしが 7.5 割でした。浪人経験はいませんでした。入学前の勉強は 7 割近くの学生が勉強をしていないと答えていました。入学後にクラブ活動やサークルに参加したいと考えていた学生は 9 割近くいました。

「大学生活について」設問 18～40

生活サイクルの中心は自室が 4 割近く、アルバイトが 3 割程度でした。クラブやサークル活動は、週に 1～3 回を 5 割以上、全くしていない学生が 3 割程度、週に 4～6 回の学生が 1 割程度でした。アルバイトでは週に 1～3 回と答えた学生が 6 割程度、していない学生が 2 割程度、週 4～6 回している学生も 1 割程度いました。資格取得は、全員が望んでいました。本学のイメージは、変わらないが 4 割程度、悪くなったが 3 割、良くなったが 2.5 割でした。週に何日学校に来るかでは、5 割以上の学生が毎日と答えていました。学内での居場所では講義研究棟が 4 割、図書館が 3 割程度でした。休日や長期休暇の過ごし方は、6 割以上の学生がアルバイト、帰省が 5 割以上、クラブ・サークル活動が 3 割いました。

学費の工面は、親、親戚と奨学金がそれぞれ 6 割程度（複数回答の為）、アルバイトが若干名いました。一人暮らしをしている学生は 6 割以上で、家族と同居が 3 割程度でした。一人暮らしの学生の生活費は、アルバイトが 5 割、親からもらうが 4 割、奨学金が 2.5 割でした。好きな講義・実習は、2～4 つが 6 割以上で、ないが 2.5 割でした。大学生活で悩みはないと答えた学生は 4 割近く、勉強や成績のことが 3 割程度でした。悩みを相談する相手は半数が友人と答えていました。休学・留年はいませんでした。

「自主学習」設問 41～42

平日の平均勉強時間は、していない学生が 3 割強、30 分～1 時間が 3 割、30 分未満が 2.5 割、2 時間以上が若干いました。休日の平均勉強時間は、していない学生が 3 割強、30 分未満及び 30 分～1 時間が 2.5 割、2 時間以上が 1 割程度いました。

臨床福祉学科結果

「プロフィール」設問 1～10

学生の年齢は、20代が6割、10代が4割で、性別に関しては、男女の比率は4:6でやや女性が多いのが特徴的でした。出身地では、宮崎県出身学生が7割を占め他学部比べて多い傾向にありました。ついで福岡県と大分県が多くなっていました。入試区分については、A0、指定校、推薦入試で6割を占め、とくに指定校が4割で特徴的でした。本学以外に受験した学校では、5割が本学以外の学校は受験せず、4割が国公立大学の受験を経験していました。通学手段はバイクと自動車がそれぞれ約3割で、通学時間は大半が30分以内でした。入学時にすでに本学学友会会員であることを知らない学生が全体よりも多い傾向にありました。

「大学入学以前について」設問 11～17

本学科の情報入手先は、親、知人、高校から紹介が5割あり、ホームページ、オープンキャンパスがそれぞれ4割を占めていました。学科選択は7割が自分の意思で行っていましたが、3～4割は親や高校・予備校の先生の影響も受けていました。学科の選択理由は、7割が資格が取れることを挙げ、自宅通学が可能や他の大学に合格できなかったという理由も多くなっていました。不登校の経験のある学生は3割程おり全学でも最も高い比率になっていました。浪人経験は、ほぼありませんでした。入学前に勉強している学生は5割程度で、入学後クラブやサークル活動に参加を考えている学生は6割程度でした。ほぼ全員が資格を取りたいと考えていました。

「大学生活について」設問 18～40

講義以外での生活サイクルでは、自宅で過すとアルバイトが生活の中心である学生がそれぞれ4割でした。クラブやサークル活動の頻度は、6割が参加しておらず、活動をしている場合ではその頻度は週1～3回から年に数回まで特徴的な点はありませんでした。7割がアルバイトをしており、その頻度は週に1～3回と4～6回がそれぞれ3割で、とくに週4～6回が他学部比べて多く、やや頻度が高い傾向にありました。入学前後に本学のイメージは6割の学生で変わっていませんでしたが、良くなったの比率が他学科よりも高い傾向にありました。大学への通学頻度は7割が毎日通学していますが、2割は週3～4日でした。キャンパス内で過す場所は食堂と講義室で7割を占めていました。ロビーやホールで過ごす学生が1割おり、他の学科よりも高くなっていました。休日の過ごし方は6割がアルバイトで3割は帰省をしていました。学費は8割が親や親族からの援助で、半数が奨学金を利用していました。一人暮らしと家族との同居がおおむね半々で、水道光熱費を除いた生活費は一人暮らしの場合3～5万円が5割、家族等との同居の場合3万円以下が5割でした。生活費の正面は一人暮らし、同居に関わらず親などからの援助とアルバイトの比率が高く、とくに一人暮らしでは奨学金の比率が高くなっていました。好きな講義や実習の数は2～4つが約6割を占めていましたが、なしという学生も3割いました。大学生活での悩みは、勉強や成績、進路や就職が多くなっていました。また、友人関係や大学外の関係が他の学科よりも多くなっていました。さらに経済的問題を挙げる学生も少なくありませんでした。悩みの相談は、友人や親・兄弟姉妹等が5割で最も多く、チューター教員への相談も約3割いました。一方で誰にも相談しないも2割いました。休学した経験を持っている学生は約1割で、その理由は、身体的疾患、学力不足、進路に疑問でした。休学後復学した時、全員、勉強意欲が向上していました。留年経験は約1割で、その理由は学生間の問題、学力不足、勉強意欲の喪失、進路に疑問と多岐にわたっていました。

「自主学習」設問 41～42

平日や休日の1日の平均勉強時間は、30分未満と30分～1時間がそれぞれ25%でした。3割が全く勉強していませんでした。

子ども保育福祉学科結果

「プロフィール」設問 1～10

「このアンケートに同意しますか」に対して「同意する」と答えたのは2名で、以下、アンケートへの回答結果はこの2名の回答に基づくものである。回答学生の学年は3年1名、4年1名であり、20代が1名だが、40代以上が1名いる（後者はマークミスか？）。性別は男女1名ずつ。出身地は佐賀1名、宮崎1名。入試区分はA0入試1名、指定校入試1名。この2名は共に国立大学も受験しているので、本学が第一志望ではなかったと思われる。通学手段は徒歩と自動車が各1名ずつ。

「大学入学以前について」設問 11～17

本学に関する情報入手先は大学案内、ホームページ、オープンキャンパス、親・知人・高校教員や先輩に複数マークしている。「本学学部・学科選択に大きく関与した人」については設定選択肢のすべてに1名ずつマークしてある。「本学学部・学科を選んだ理由」については、「資格が取得できる」に2名、「就職率が高い」に2名、「自宅通学ができる」に1名、「他大学に合格できなかった」に1名のマークがある。資格と就職率が意識されていることが予測される。「入学後に備えて、入学前に勉強しましたか？」に対しては2名とも「いいえ」と回答。入学前の自主的学習意欲はないようである。

「大学生活について」設問 18～40

講義以外の生活サイクルの中心は学内実習1名、アルバイト1名。クラブやサークル活動は2名とも全くしていない。アルバイトは年に数回が1名。資格については1名のみ「取りたい」と回答。入学前と入学後で本学に対するイメージは変わったかについては「変わらない」が1名。休日や長期休暇の過ごし方については2名ともアルバイト。学費の工面については2名とも親・親戚から援助。一人暮らしについては1名が一人暮らし、1名が家族と同居。家族と同居した場合、月の生活費は3万円以下が1名。5万円から10万円が1名（ただし、2名中1名は一人暮らしなので誤回答か？）。その場合の生活費の工面は、親・親戚から貰う1、無奨学金1、アルバイト1（複数回答）。一人暮らし・友人と同居の場合の家賃と水道・光熱費以外の月の生活費は5～10万が1名。その工面はアルバイト。好きな講義・実習はいくつあるかという質問に対しては「なし」1名、「1つ」1名。回答者が2名なので確かなことは言えないが、少なくとも2名に関しては講義・実習についてはあまり興味・関心が持てていないことが予測される。大学生活についての悩みについては、先輩との関係、教員との関係、健康の問題、勉強や成績のこと、進路や就職のことにそれぞれ1ずつ回答。回答者に限っては生活全般に悩みを持っていることが伺える。悩みがある場合の相談相手はチューターが1名。休学経験はなし。留年もなし。

「自主学習」設問 41～42

平日（講義以外）の1日平均勉強時間は「していない」が1名、「30分～1時間未満」が1名。自主的学習はほとんどしていないのが実態であるようだ。休日の1日平均勉強時間（ホームワークも含む）は30分～1時間未満が1名。たまに課題がでることを考えると、休日における自主的学習はほとんどしていないのが実態であろう。総じて自主的学習態度は見られない。

作業療法学科結果

「プロフィール」設問 1～10

作業療法学科の回答率は4割であり、3年と4年で9割を占め、1年と2年は1割未満でした。学生の年齢は20代が9割で、男女の比率はほぼ同じでした。出身地では、9割以上が九州地区であり、うち宮崎県出身学生が約6割を占め、次いで大分県が約1割強でした。入試区分については、指定校入試とセンター入試がほぼ3割ずつでした。本学以外に受験した学校では、5割が本学のみを受験であり、2割強が国公立大学、2割が私立大学受験でした。通学手段は自動車が6割、バイクが2割でした。通学時間は9割が30分以内でした。入学時にすでに本学学友会会員であることを知っている学生は6割でした。

「大学入学以前について」設問 11～17

情報入手先は、「親、知人、高校から紹介」、オープンキャンパス、大学案内、ホームページの順で、ほぼ4割強程度でした。学科選択に関与した人物では、6割が親の勧めで、4割は自分の意思および高校・予備校の先生からの勧めでした。学科の選択理由は、約7割が資格取得、2割強が他学の不合格、2割弱が自宅通学可能でした。不登校の経験のある学生は1割強でした。浪人経験は1名でした。入学後に備えて入学前から勉強していた学生は3割強で、入学後クラブやサークル活動に参加を考えていた学生は約5割でした。

「大学生活について」設問 18～40

講義外の過ごし方は4割強が自宅、2割がバイトでした。学内自習の実施は2割でした。クラブ活動等は7割がなしでした。バイトは5割がなしで、実施者の5割が週1～3回でした。資格取得は全員が希望していました。本学イメージは1割強が向上でしたが、悪化も同率でした。通学頻度は9割強が毎日でした。学内の居場所は講義棟が6割、学食が2割でした。休日等の過ごし方は5割が帰省が3割がバイトでした。学費は7割強が親の援助で、6割が奨学金でした。一人暮らしは6割強でした。一人暮らしの家賃等以外の生活費は3割が3～5万でした。好きな講義は5割がなしでした。悩みは5割が勉強、4割が進路、2割が友人関係でした。悩みの相談者は5割が友人でした。体学経験者は1名で、理由は身体疾患した。留年経験は1名で、理由は教員との問題と学力不足でした。

「自主学習」設問 41～42

平日1日の平均勉強時間は、2割が勉強せずで、6割が30分～1時間以上でした。休日の平均勉強時間は3割が30分～1時間で、2割強がしないと1時間以上でした。

言語聴覚療法学科結果

「プロフィール」設問 1～10

言語聴覚療法学科は全体の4割が回答し、回答した人数は各学年ほぼ均等でした。学生の年齢は20代が8割、10代が2割で、男女の比率は男性が3割、女性が7割でした。出身地では、宮崎県出身学生が約5割を占め、次いで熊本県約1割で、9割が九州・沖縄出身者でした。入試区分については、指定校入試が5割を占めているのが特徴でした。本学以外に受験した学校では、6割が本学以外の学校は受験していませんでした。通学手段はバイクと自動車と合わせて約8割で、通学時間はほぼ全員が30分以内でした。入学時にすでに本学学友会会員であることを知っている学生が約半数でした。

「大学入学以前について」設問 11～17

情報入手先は、ホームページ、オープンキャンパス、大学案内からの入手がそれぞれ4割前後いました。最も多いのは、ホームページからの情報入手でした。また、学科選択は5割が自分の意思及び、4割は親や高校・予備校の先生からの勧めでした。学科の選択理由は、約8割が資格取得、4割が国家試験合格率を挙げました。不登校の経験のある学生は約2割でした。浪人経験は1割でした。入学後に備えて入学前から勉強している学生は5割で、入学後クラブやサークル活動に参加を考えていた学生は約4割でした。

「大学生活について」設問 18～40

約4割が講義以外の時間を、学内で自習または自宅で過ごすと回答し、実際、入学後クラブやサークル活動に参加をしているのは1割強でした。4割がアルバイトしておらず、アルバイトをしている場合、最も多い頻度は週に1～3回でした。また、全員が資格取得を望んでいました。入学前後に本学のイメージは過半数の学生が変わっていないと回答しました。大学への通学頻度は7割が毎日通学していますが、約3割は週3～4日でした。キャンパス内で過す場所は講義研究棟が6割を占めていました。休日の過ごし方は6割が帰省、5割がアルバイトをしていました。学費は8割が親や親族からの援助で、約半数が奨学金を利用していました。一人暮らしが9割弱で、家族や親戚との同居が1割強でした。家族や親戚と同居した場合、生活費は水道光熱費を除いて5万円以下が半数を占めていました。生活費の工面は親などからの援助の割合が高くなっていました。一人暮らしの場合、生活費は3～5万円が多く工面は親などからの援助の割合が高くなっていました。好きな講義や実習の数はなしが約半数いて、次いで2～4つが3割を占めていました。大学生活での悩みは、勉強や成績のことが6割強、進路や就職のことが約半数いました。また、悩みの相談は、友人が7割と最も多く、次いで親・兄弟姉妹等が4割と多くなっていますが、チューター教員への相談も1割強いました。休学した経験を持っている学生は約1割で、その理由は、勉強意欲の喪失と身体的疾患でした。休学後復学した時、勉強意欲が全員向上したと回答しました。留年経験は1割強があり、その理由は学力不足でした。7割強はその後、勉強意欲が向上したと回答しました。

「自主学習」設問 41～42

平日1日の平均勉強時間は30分～1時間が4割で、2時間以上が1割強いました。休日の平均勉強時間は30分未満が約1割で、7割強が1時間以上勉強していました。

視機能療法学科結果

「プロフィール」設問 1～10

視機能療法学科におけるアンケート回答率は8%（4名 / 50名）と非常に低い割合であった。結果分析に十分な回答率とは言い難く、回答率の低さが最大の問題点である。4名分の回答ではあるが、過半数を超えた主な回答には、「宮崎県の出身」、「指定校入試 / 推薦入試を受験」、「他校の受験なし」、「電車とバス通学」、「学友会費を納め、学友会会員であることを知っている」があった。

「大学入学以前について」設問 11～17

過半数を超えた主な回答には、「ホームページ / オープンキャンパスで本学の情報を入手」、「自分 / 親の意志で学部・学科を選択」、「不登校経験なし」、「浪人経験なし」、「入学前に勉強しなかった」、があった。

「大学生活について」設問 18～40

過半数を超えた主な回答には、「講義以外は自宅で過ごす」、「アルバイトをしていない」、「資格を取りたい」、「入学前後で本学のイメージに変化なし」、「週3～4日の講義出席」、「学費は親、親戚から援助」、「家族と同居」、「生活費は親、親戚から貰う」、「好きな実習はなし / 1つ」、「勉強や成績 / 進路や就職のことで悩みがある」、「悩みは友人に相談する」、「休学はしたことがない」、「留年したことがない」があった。

「自主学习」設問 41～42

平日の1日平均勉強時間は30分～1時間未満が過半数を超え、休日の1日平均勉強時間は4名それぞれで異なっていた。

臨床工学科結果

「プロフィール」設問 1～10

本学科在籍者数 75 名に対して、7 名の回答 (9.3%) と学科の学生情報を集約するには寂しい結果となってしまった。特に 2 年生からの回答がなく、周知方法を含めて課題の残るアンケートとであった。回答した学年はほぼ均等に分かれており、男性が 85.7% を占めた。出身は、宮崎県外が多く (85.7%) そのため、通学手段も自宅外からバイク・車で通学し、かつ通学時間も 30 分以内であった (85.7%)。入学方法に関しては、以前より本学科は一般・センター試験を利用した理系出身の男性学生が多く、今回のアンケートでもほとんどの学生が併願でかつ、一般・センター試験利用者であった (85.7%)。

「大学入学以前について」設問 11～17

回答した学生は全員現役入学でかつ不登校経験のない学生であった。本学科への入学は、自分の意思が 85.7% と高く、その理由も資格を得る (71.4%)、環境が良い (42.8%) と続いた。また、本学科の情報元は大学案内 (85.7%)、ホームページ・ブログ (57.1%) と続いた。これにより作製したパンフレットやホームページから“臨床工学技士”という資格や社会的な位置づけが十分把握できていることが示された。そして入学前勉強に 71.4% の学生が取り組んでいたことから、意識の高い学生を得ることができているようである。

「大学生活について」設問 18～40

臨床工学科では、低学年から専門科目や実習が設定されている。その為、学校生活での多くの時間を学業などに費やす学生が多い (85.7%)。この特徴を反映して、回答者のうちアルバイトを行っている学生はなく、サークル活動に最も携わっている学生でも週に 1-3 回程度である。前出のようにほとんどが自宅外通学であるが、生活費についてはバラつきがあり、親や親類の支援と奨学金で賄われている。学業に関しては、85.7% が毎日大学へ来ており、その全員が研究棟 (8 号棟) で過ごしている。これは、全員が“臨床工学技士”の資格取得を目指しており、かつ研究棟では教員・先輩の指導の下、空き時間に医療機器のメンテナンスやオペレーションの自学ができるシステムを取っていることを反映していると思われる。一方で、入学後の大学に関するイメージが悪くなった、との回答が 42.8% あった。これが学科に関するイメージなのか否かは不明であるが、留年経験があると回答した 2 名のうち、1 人は就学意欲の低下を理由としており、また悩みの項目で 1 名が教員との関係と答えている。さらに、悩みがあっても誰にも相談しない (2/4 人) との結果もあり、学科として今まで以上に丁寧に学生と向き合っていく必要があることが示された。

「自主学習」設問 41～42

平日・休日ともに 2 時間以上勉強するとの回答が 42.8% あり、かつ無勉強が 0% であった。学力の幅は広いが、勉強する意識は高いので、より一層の意識向上や環境整備に学科として取り組むことで全員の“臨床工学技士”の資格取得に近づくとと思われる。

薬学科結果

「プロフィール」設問 1～10

薬学科では約 23%の学生がアンケートに回答し、1 年生から 6 年生まで満遍なく回答していました。年齢については 10 代 20 代が大半ですが、30 代以上が 7 名いました。薬剤師国家資格の取得目的で他の仕事を辞めてから入学している学生が一定数いることが伺えます。性別では女性の回答が 7 割を越えていますが、実際の割合はこれよりも低いため、女子学生の方がアンケートの回答率が高いと考えられます。出身地は宮崎県が最も多く、次いで熊本県、鹿児島県、大分県でした。この 4 県で 77%でしたので、大学に近い県から集まっていることが分かります。入試区分としては一般入試が 42%ともっとも多く、次がセンター利用の 25%でした。また、32%の学生は本学だけの受験ということで、早い段階から本学に絞る学生も 3 割程度いるようです。通学手段は 66%が自動車・バイクですが、バスや自転車を利用している学生も 34%いました。そして 6 割以上が学友会会員であることを知っていました。

「大学入学以前について」設問 11～17

本学に関する情報の入手先は、親・知人・高校教員や先輩が最も多く、次いで大学案内、ホームページ、オープンキャンパスでした。大学案内やホームページの充実が重要であると考えられます。また本学の選択には、自分の意思で決めた学生が最も多かったのですが、やはり親や高校の教員などの意見により選択した学生も半分近くいることが分かります。本学科を選んだ理由としては、資格が取得できる、国家試験合格率が高いがそれぞれ半分以上でしたので、資格取得を目標として選択した学生が多いようです。一方、他大学に合格できなかったを選んだ学生も 26%いますので、国立などの他の薬学部の滑り止めとして受験した結果本学に来た学生が 1/4 いることが分かります。高校までの不登校経験がある学生は 9%で、浪人経験がある学生は 14%でした。入学後に備えて入学前に勉強したのは 52%で、入学後にクラブやサークル活動に参加しようと考えていたのは 44%でした。

「大学生活について」設問 18～40

講義以外の生活サイクルの中心では、58%の学生が自宅で過ごし、25%の学生が学内自習であり、クラブ・サークル活動やアルバイトと回答した学生はわずかでした。クラブ・サークル活動およびアルバイトの頻度での「全くしていない」の割合がそれぞれ 74%、61%でしたので、この結果と相関しています。入学前後で本学のイメージが悪くなった学生が 3 割程度おり、良くなったと答えた学生よりも多かったため、この理由について確認する必要があると考えます。またほとんどの学生が講義に出席するために毎日大学に来ており、キャンパス内の主な居場所は講義研究棟でした。休日や長期休暇の過ごし方では、帰省が 6 割と多く、アルバイト・その他の学生も 3 割程度いました。学費の工面は親・親戚、奨学金からが大半でした。悩みについては勉強・成績が最も多かったのですが、それ以外にも様々な内容で悩みがあることが伺えます。悩みの主な相談相手は友人、親・兄弟でした。

「自主学習」設問 41～42

講義以外にも平日に 2 時間以上勉強する学生が 39%いました。1～2 時間勉強する学生を含めると 60%となりますので、半分以上の学生が平日も勉強時間を確保していることが分かります。1 年生ではホームワークが課される講義科目が多いため、その影響が大きいのではないのでしょうか。一方、まったくしていないと回答した学生も 13 名おりましたが、実務実習に行っていた 5 年生がこの選択肢を選んだ可能性が高いと考えられます。また休日になると全体的に勉強する時間が増え、2 時間以上勉強する学生

の割合が54%と増加します。一方、まったくしていない学生も増えますので、休日は勉強せずにリフレッシュやアルバイト、サークル活動に費やす学生がいることが示唆されます。

動物生命薬科学科結果

「プロフィール」設問 1～10

約 48%の学生がアンケートに回答していました。学年別では 2 年次生が約 80%と高い回答率でしたが、3 並びに 4 年次生は約 30%でした。出身地は福岡県が多く、次いで宮崎県、鹿児島県、熊本県の順で、九州圏内で 72%を占めていました。入試区分としては一般入試が 38%と最も多く、次がセンター利用の 24%でした。通学手段はバイクが 44%と最も多く、自動車が 24%、自転車が 16%、バスが 14%、徒歩が 2%でした。通学時間は、90%が 30 分以内でした。学友会会員であることを知っていた学生は 52%でした。

「大学入学以前について」設問 11～17

本学に関する情報の入手先は、ホームページが 44%と最も多く、次いで親、知人、高校教員や先輩 (40%)、大学案内 (38%) でした。ホームページの充実とともに、知人、高校教員や先輩への広報活動、大学案内の充実が重要であると考えられました。また本学の選択には、自分の意思で決めた学生が 70%と最も多かったのですが、親や高校の教員などの意見により選択した学生も 58%いることが分かりました。本学科を選んだ理由としては、資格が取得できるが 64%であり、資格取得を目標として選択した学生が多かったが、他大学に合格できなかった並びにその後もそれぞれ 20%いました。高校までの不登校経験がある学生は 10%で、浪人経験がある学生は 14%でした。入学後に備えて入学前に勉強したのは 56%、入学後にクラブやサークル活動に参加しようと考えていたのは 70%でした。

「大学生活について」設問 18～40

講義以外の生活サイクルの中心では、学生の 58%がアルバイト、34%が自宅あるいは自分の部屋で過ごすであり、アルバイトと回答した学生が多いことが判りました。そのアルバイトの頻度は週 1～3 回が 46%、週に 4～6 回が 22%であり、生活サイクルの中心がアルバイトであることと相関していた。将来に向けて資格を取りたい学生は 94%であり、本学科を選んだ理由と相関していた。入学前後で本学のイメージが悪くなった学生が 34%、良くなったと答えた学生 10%よりも明らかに多かったため、この理由について本学科においても確認する必要があると考えた。また学生が講義に出席するために毎日大学に来ているは 50%で、キャンパス内の居場所は 72%が講義研究棟でした。休日や長期休暇の過ごし方では、アルバイトが 74%と最も多く、次いで帰省が 58%でした。学費の工面は親・親戚、奨学金からがそれぞれ、70%、64%と大半を占めましたが、アルバイトからも 32%を占めていました。本学科では、一人暮らしの学生がほとんどで 84%でした。その生活費は 54%がアルバイトから、44%が親から、36%が奨学金から工面していた。悩みについては進路や就職が 44%が最も多かったが、勉強や成績が 42%、経済的問題が 30%、友人関係が 28%を占めていた。悩みの主な相談相手は友人、親・兄弟でした。

「自主学習」設問 41～42

講義以外、平日に勉強していない学生が 26%、30 分～1 時間未満も 26%と多く、次いで、1～2 時間未満が 22%、30 分未満は 20%、2 時間以上勉強する学生は 6%でした。したがって、30 分未満の学生が約半数いることが判りました。また休日になってもその傾向はほとんど変わらないことが判りました。

生命医科学科結果

「プロフィール」設問 1～10

学生の年齢については、本学科ではほとんどの学生が現役入学であり、その男女比は大学全体とほぼ同じ3.5:6.5であった。出身地については、大学全体と相似的な動向を示しており、宮崎県内出身者が35.9%、九州圏内からの学生となると91.0%となり、非常に高い地域密着性が伺われた。

入試区分については、一般入試合格者の割合が62.8%と大学全体で最も高く、次いで指定校とセンター利用が同率で14.1%であった。本学科以外に受験した大学・学部については、国公立大受験35.9%と高い割合を示すが、複数回答可の設問であり、あくまでも学生個人の希望調査であると理解している。

通学手段については、大学全体では自動車が42.3%、次いでバイク24.0%、バス15.4%であるが、本学科でも、自動車の通学利用が33.3%と最も多く、公共交通機関利用の学生は25.6%であった。

通学時間は、76.9%の学生が30分以内であり、大学近隣に居住する傾向が認められた。また、入学時に、本学学友会会員であることを知らない学生が37.1%(大学全体39.6%)であり、本学への帰属意識の薄さが明らかとなった。

「大学入学以前について」設問 11～17

本学科においては、ホームページ、大学案内が今年度は参考にしてしている学生が多く、次いで親、知人、高校からの本学の情報入手と、昨年までとは異なる傾向が見られた。また、進路決定については、自分の意志で最終決定している学生が61.5%を占め、次いで親の39.7%、進路担当の教員の意見を参考にしてしている学生が26.9%であった。また、本学の情報入手先については、大学案内41.0%、ホームページ43.6%であったが、身近な人物の影響が大きいことが示唆された。

本学科の選択理由としては、資格取得に魅力を感じた学生が88.5%を占めるが、反面、他の大学に合格できなかったからと答えた学生が30.1%存在し、入学後の学生の基礎学力に留意する必要がある。

入学前学習については、50.0%と半数に留まっており、大学全体の学生の動向と一致していた。また、入学後のクラブやサークル活動に参加を考えていた学生は60.2%であり、大学全体の学生54.4%と比べ高い傾向を示した。

「大学生生活について」設問 18～40

講義以外での生活サイクルについては、本学科の学生の44.9%が自宅で過ごすと答えており、学内における自習スペースの拡大が望まれる。サークル活動については、入学前の状況と異なり、大学全体の集計結果96.9%と同様に、本学科でも97.4%の学生が参加していなかった。アルバイトについては、本学科では56.4%の学生が何らかの形でアルバイトをしていたが、その頻度は、「週に1～3日」であり学習への負担の少ないように配慮されていた。加えて、全くアルバイトを全くしていない学生が43.6%存在した。

学費の捻出については、親・親戚からの援助が74.4%を占め、それと併用する形で奨学金受給57.7%、アルバイト16.7%であり、全学的に共通する内容であった。

生活環境については、本学科では「一人暮らし」の割合が67.9%であり、家族と同居している学生の平均的な月間支出金額(3～5万円/月)に比べ、やはり経済的負担の大きいことが理解される。

大学生生活における悩みについては、大学全体と同じく、勉強や成績57.7%、進路や就職43.6%であった。また、本学科では、教員との関係と回答した学生が19.2%存在し(大学全体:10.8%)、今後、チューターを中心としたきめ細やかな対応が望まれる。

休学経験がある学生については、本学科では2名(2.6%)であったが、他学科同様、学力不足・意欲の喪失、心的ストレス、進路への不安等で、増加することが懸念される。

留年経験の問いについては、本学科では4年生に進級できなかった学生が数名存在するものの、今回のアンケートに協力していなかったことが伺える。来年度以降も、他学科同様、学力不足を要因とする原級留置の学生への対応が、国家試験の対策も含め重要な課題となる。

「自主学習」設問 41～42

平日ならびに休日の1日の平均学習時間については、平日1時間以上学習している学生は65.4%であり、大学全体の学生平均47.8%に比べ学習意欲の高い学生の割合が多かった。しかしながら、全く学習していない学生が9.0%存在した(大学全体:15.1%)。

来年度以降も引き続き、留年者を少しでも出さない様、休日の学習時間(1時間以上学習している学生:70.5%)とともに、学生への学習指導の周知徹底の必要性が認められた。